

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
平内町	西地区(藤沢、山口、小豆沢、中野)	令和3年3月31日	令和3年3月31日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	331.9	ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	184.1	ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	49.3	ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	34.6	ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0	ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	9.2	ha
(備考)		

2 対象地区の課題

<p>農業者の高齢化が進んでおり、担い手の育成が必要となる。また、ほ場整備から年数が経過しており、ほ場や水路等の劣化が進んでいる。特に中野ではほ場整備が未実施のため、耕作条件が悪い田や水路が多い。</p> <p>経営状況についても、ヤマセや高齢化等の影響により水稲以外の作物を作付する経営体が少なく、農業所得を確保するためには広大な面積を作付する必要があり、少ない面積で所得を確保できる高収益作物の検討も必要となる。</p> <p>そのほか、近年ニホンジカの日撃情報や被害が発生しており、早期の対策が必要となる。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>藤沢は、中心経営体である7経営体を中心に集積を進めていく。 また、認定農業者を目指す経営体からの耕作希望や他地区の認定農業者・認定新規就農者等からの入作希望があった場合は積極的に受け入れていく。</p>
<p>山口は、中心経営体である13経営体を中心に集積を進めていく。 また、認定農業者を目指す経営体からの耕作希望や他地区の認定農業者・認定新規就農者等からの入作希望があった場合は積極的に受け入れていく。</p>
<p>小豆沢は、中心経営体である12経営体を中心に集積を進めていく。 また、認定農業者を目指す経営体からの耕作希望や他地区の認定農業者・認定新規就農者等からの入作希望があった場合は積極的に受け入れていく。</p>
<p>中野は、中心経営体である4経営体を中心に集積を進めていく。 また、認定農業者を目指す経営体からの耕作希望や他地区の認定農業者・認定新規就農者等からの入作希望があった場合は積極的に受け入れていく。</p>

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

<農地の集積・集約>

中心経営体へ農地の集積・集約を図るために農地中間管理事業を活用する。
また、耕作可能な農地については、隣接している中心経営体や今後中心経営体を目指して規模拡大を図る経営体へ優先して集積・集約を図る。

<担い手の育成等>

農業者の高齢化が進む中で地域農業を支える農業者の受入れや育成が必要であるため以下の対応を行う。

町：県等と連携し新規就農についてのPRや経営に役立つ講座等の情報収集、案内等を行う。
農業者：新規就農者等から相談があった場合は、地域の先輩農業者として必要に応じてアドバイス等を行う。

<基盤整備・水路整備等>

未整備地域や整備後も経年劣化している箇所があるため、以下の対応を行う。

町：県等と連携し地域に適した整備事業の情報収集や必要に応じて説明会等を行う。
農業者：地域で一体となって事業の条件を達成できるように取り組む。

<水稲以外の農産物の検討>

ヤマセの影響やまとまった畑が少ないことから、水稲以外の作物を育てている農家が少ないため以下の対応を行う。

町：地域に適した野菜等がないか情報収集を行い、県等が実施する研修の案内や補助事業等の情報提供を行う。
農業者：地域で取り組める野菜等の検討を行い、意欲向上のためグループの形成を行う。

<有害鳥獣対策>

近年、ニホンジカ等による農作物への被害が発生しているため、以下の対策を行う。

町：発生地点のマッピングや猟友会と連携して罠の設置等を行う。
農業者：自己防衛に努めるほか、町で実施する罠の設置場所の確保等に協力する。